

(6) 文化芸術

① 文化芸術団体・サークル等の育成

充実した自由時間を過ごすため、文化活動等へ参加し、生活の質を高め、心豊かな暮らしを求める傾向にあります。

こうした中、市内には、総合文化センターを拠点として活動を展開している文化芸術団体等がありますが、平成17年の総社市、山手村、清音村の合併により新市域が広域化しており、新たな文化の創造や、自主的に活動を展開する文化芸術団体・サークル等への支援、リーダーの育成が必要になっています。

② 文化芸術活動の発表の機会の拡充

総合文化センターや公民館を利用して多くの団体が絵画等の展示や演奏会、芸能発表などを開催していますが、文化芸術団体等のニーズに応じた発表機会の拡充に努める必要があります。

表14 行事別市民会館使用回数

(単位：回)

	大会・総会・式典	演説講演会	演奏会	演劇・演芸・舞踊	映画	研修・講習審査会	準備(リハール)	計
平成18年度	6	8	20	11	3	5	158	211
平成19年度	7	14	19	10	7	1	149	207
平成20年度	5	6	19	7	1	5	150	193
平成21年度	5	7	20	8	3	9	144	196

表15 市民ギャラリー利用状況

(単位：件、日、%)

	使用件数	年間利用日数①	年間利用可能日数②	利用率(①/②)
平成18年度	41	229	308	74.4
平成19年度	38	215	308	69.8
平成20年度	46	250	308	81.2
平成21年度	41	223	307	72.6

③ 芸術鑑賞の機会の拡充

これまで、優良舞台芸術巡回公演や、市文化振興財団による劇団公演、クラシックの演奏会などを開催してきましたが、舞台公演等の芸術に接する機会は、まだ少ない状況です。

今後は、身近でさらに優れた芸術を鑑賞することができる機会の拡充に努める必要があります。

(7) 文化財

① 文化財の保護・保存

総社市は古代吉備の中心のひとつであり、後の備中国の中心地でもありました。このため、市内には数多くの貴重な文化財が残されています。

文化財は先人が残した貴重な財産です。郷土を理解し愛していくためにも、文化財を保護・保存するとともに、ふるさと探訪など教育現場や講座・研修などを通じ活用していく必要があります。

文化財の保護のためには、指定して保存することが有効です。現在、市内には国指定文化財が13件、県指定文化財が16件、市指定文化財が41件あります。指定文化財以外でも、登録文化財として保護していく制度ができ、市内では、国登録文化財が30件あります。(内訳は巻末参考資料107ページ参照)

今後も、文化財保護審議会委員の意見を聴きながら、指定・登録文化財の拡大を図り、文化財の保護を図っていく必要があります。

② 文化財の整備・活用

指定・登録文化財をよりよく保存するため、史跡整備を行うことが必要です。市内では現在、国指定史跡鬼城山環境整備事業を進めています。史跡整備することで文化財の理解が進み、活用を図ることができます。

鬼城山以外でも、今後、計画的に整備を進めていくことが必要です。

表 16 鬼城山環境整備実施概要

平成13年度	高石垣修理のための作業場の設置。園路整備、学習広場・解説板設置
平成14年度	高石垣修復。高石垣から第0水門までの調査。西門部材調達
平成15年度	西門復元と角楼表示整備。高石垣から第0水門までの土塁修復復元
平成16年度	ガイダンス施設建設。角楼上面床・手すりの設置
平成17年度	西門周辺整備。角楼整備
平成18年度	北門表示整備。西門周辺城内敷石整備
平成19年度	高石垣から第0水門までの土塁修復復元
平成20年度	高石垣から第0水門までの土塁前面敷石等園路整備。土塁上の板塀整備
平成21年度	高石垣西土塁修復整備。土塁上の板塀整備。城内敷石整備
平成22年度	西門東土塁修復復元。土塁板塀、敷石整備。園路整備



写真 11 復元地区整備状況（鬼城山）

③ 文化財の保護・保存啓発事業推進

文化財を保護するためには、多くの市民にまず知ってもらうことが重要と考えています。このため、『総社市の文化財と歴史』という小冊子を刊行しています。また、指定文化財では、現地に標柱や説明板を設置しています。平成22年度には、市のホームページにも指定文化財の概要を掲載しました。

また、地域の歴史を学ぶ講座や文化財めぐりなどにも積極的に職員を派遣し、郷土に残る文化財の紹介や文化財保護啓発に努め、活用を図っています。

今後とも、こうした活動を継続していくことが必要です。

表17 講座（市内）派遣件数

(単位：件)

平成19年度	平成20年度	平成21年度
13	17	20

④ 文化財の調査

市内には、指定文化財以外にも、郷土の歴史を伝える文化財が多く残されています。

このため、平成19年度から「石仏調査」を行っています。調査は、市内全域で行うことができるよう年次計画により進めています。この調査では、地域の人たちを中心に調査員としてボランティアで協力していただき、地域の歴史を自分たちの目と足で明らかにしています。現在、その成果を3冊の報告書として刊行しました。

今後とも、調査を継続していく必要があります。

また、古文書では、市史編纂事業で撮影したフィルムをデジタル化する事業を行っています。デジタル化すると、内容を簡単に検索することが可能になり、調査研究に役立てることができます。

今後は、どのように公開し、利用を図るのが課題になります。

⑤ 開発に伴う埋蔵文化財発掘調査

埋蔵文化財は、総社市の歴史を考える上でとても重要な文化財といえます。

このため、遺跡地図等の刊行を通じ周知を図っています。また、貴重な遺構・遺物が出土した場合には、現地説明会やミニ展示を行い、公開にも努めています。埋蔵文化財である遺跡は、現状で保存することを一番に考え、やむを得ない場合には、発掘調査を行うことにしています。調査後は、年報・報告書を刊行し、活用を図っています。

埋蔵文化財発掘調査にあたっては、開発事業と遺跡保護の調和を図りながら事業を進めています。

なお、多くの方々に発掘調査内容を知っていただくために、報告書以外にも、内容を分かりやすく解説したパンフレットなども発行していく必要があります。

表 18 平成21年度 事業内容

駅南区画整理事業に伴う発掘調査	常盤小学校校舎増築に伴う発掘調査
窪木市道新設工事に伴う発掘調査	小規模開発に伴う確認等発掘調査
南溝手支線市道改良工事に伴う発掘調査	

表 19 既刊報告書等一覧

書名	巻	遺跡名	書名	巻	内容
埋蔵文化財発掘調査報告	1	緑山17号墳他	埋蔵文化財調査年報	1	平成2年度分
	2	法蓮古墳群		2	平成3年度分
	3	高本古墳群		3	平成4年度分
	4	法蓮40号墳		4	平成5年度分
	5	長砂古墳群		5	平成6年度分
	6	長砂谷1号墳他		6	平成7年度分
	7	備中国府跡		7	平成8年度分
	8	青谷川古墳群他		8	平成9年度分
	9	西団地内遺跡群		9	平成10年度分
	10	折敷山遺跡他		10	平成11年度分
	11	藤原北古墳群		11	平成12年度分
	12	牛飼山古墳群		12	平成13年度分
	13	すりばち池古墳群		13	平成14年度分
	14	石原後遺跡		14	平成15年度分
	15	奥坂遺跡群		15	平成16年度分
	16	三須河原遺跡他		16	平成17年度分
	17	小山ヶ谷古墳他		17	平成18年度分
	18	古代山城 鬼ノ城		18	平成19年度分
	19	古代山城 鬼ノ城2		19	平成20年度分
	20	大文字遺跡			
	21	法蓮広堂山古墳群			